

平成28年度秋季企画展「名画との出会い」Part.5]

藤田嗣治Ⅱ



◆フジタとゆかりの作家たち◆

対立した師の黒田清輝、ピカソなどエコール・ド・パリの仲間たち、小磯良平、宮本三郎、中村研一ら共に戦争画を描いた画家たち、パリ帰還を助けたヘンリー杉本を展示。

会場・主催 公益財団法人 河村美術館

住所／佐賀県唐津市北城内 6-5 (*駐車場あり) 電話(FAX)／0955-73-2868

URL／<http://www.kawamura.or.jp/> Mail to／kawamura2868@diary.ocn.ne.jp

後援 唐津市・一般財団法人 唐津観光協会

公益財団法人 唐津市文化事業団

協賛 画廊裕貴

9月17日(土)～11月6日(日)*

*上記の9/23,11/4,土日祝日のみ閉館

10:00～17:00(入館～16:30)

料金／大人500(400)円 大高生400(300)円(20名以上団体料金) *中学生以下無料

唐津唯一の美術館である弊館は一昨年「公益財団法人」に認可され、新たな出発として「名画との出会い」展を開催致します。秋季展は part.5 として、世界的にも有名な洋画家、藤田嗣治を紹介致します。

藤田嗣治（ふじた つぐはる）は、日本画の技法も取り入れた独自の「乳白色の肌」と呼ばれた裸婦像で西洋画壇の絶賛を集めました。戦前からフランス・パリで活動し、猫・女やパリ下町の少年少女、聖母子像などの画題が得意でよく知られています。マリー・ローランサンやモイーズ・キスリングなどのいわゆる「エコール・ド・パリ（「パリ派」と訳される）」の代表的な画家のひとりです。

今年度は、藤田嗣治にゆかりの作家たちを取り上げ、藤田嗣治の全画業を俯瞰する展覧を試みました。

まず、画家を志し、明治 38（1905）年に東京美術学校（現・東京芸術大学美術学部）西洋画科に入学した藤田嗣治は、師・黒田清輝と出会います。藤田嗣治は、黒田清輝が教える写実的だが表面的な技法ばかりの授業に失望、師を軽んじる傲岸不遜な生徒でした。が、一方でそれは藤田嗣治の才能の証明でもありました。東京美術学校での 4 年先輩の青木繁も同様でしたが、在学中に接点はありません。

大正 2（1913）年に渡仏し、モンパルナスに居を構え、モディリアニやスーチン、ピカソなどエコール・ド・パリの画家たちと親交、キュビズムやシュールレアリスム、素朴派などの新しい 20 世紀の絵画に大きな衝撃を受けた藤田嗣治はそれまでの画風を全て放棄し、よく知られる面相筆の細い描線と乳白色の画面の独特な画風を確立、以後、高い名声を得、経済的にも大成功を納めます。

昭和 6（1931）年、南米北米で個展を開催し、大きな賞賛を浴びるなどさらに活躍、昭和 13（1938）年から一年間、小磯良平、宮本三郎、向井潤吉、田村孝之助、中村研一らとともに従軍画家として中国に渡り、翌年日本に帰国。この後、パリに戻るも第二次世界大戦勃発のため、再度日本に帰国、日本では陸軍美術協会理事長に就任し、戦争画の制作を手がけました。そのため、戦後「戦争犯罪人」として GHQ から追われ、命からがら逃げ出した藤田嗣治は、友人であった在米画家・ヘンリー杉本を頼って、ようやくパリへ戻りましたが、既に多くの親しい画家たちはこの世を去るか亡命していて、マスコミからも「亡霊」と呼ばれたみじめな有様でした。

子供たちと語らい、描く晩年を過ごす藤田嗣治は昭和 30（1955）年、フランス国籍を取得（その後、日本国籍を抹消）、翌々年にはフランス政府からレジオン・ドヌール勲章シュバリエ章を贈られ、昭和 34（1959）年にはカトリックの洗礼を受けて、レオナルド・フジタと改名。昭和 43（1968）年、スイスのチューリヒにて癌のため死去、遺体はパリ郊外に葬られ、没後日本政府から勲一等瑞宝章が追贈されました。81 年の波乱に満ちた生涯でした。

パリでの成功後にも、また陸軍関係者の多かった出自のため「戦争画」を描いた戦後にも、藤田は存命中に日本社会から認められる事はついにはありませんでした。しかし、没後、終生の妻・君代夫人の献身と努力により、藤田は改めて評価されるようになり、日本で展覧会も開催されるようになりました。現在では、藤田は須田國太郎・熊谷守一と並び、海外では日本の油彩画家として認められ、著名な作家としての高い地位を確立しています。

今回は、藤田嗣治とゆかりの画家たちの、それぞれ魅力ある作品を展示致します。藤田嗣治の生きた時代を体感して戴けるかと存じます。藤田より年長ですが、ほぼ同じ時代を生きた青木繁の弊館所蔵の作品も御覧戴けます。爽やかな秋から穏やかな初冬の落ち着いた季節に、皆様のご高覧を心よりお待ちしております。ぜひご来館戴きますようお願い申し上げます。